

安全取扱説明書

穴掘機 A-7H



- ご使用前に必ずこの安全取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
- 安全取扱説明書は大切に保管してください。



NIKKARI CO., LTD.

株式会社

ニッカーリ

国内営業所 岡山市東区西大寺川口465-1 TEL(086)943-0061 FAX(086)943-0405
東日本営業所 さいたま市北区吉野町1-389-9 TEL(048)664-5771 FAX(048)666-3790
西日本営業所 岡山市東区西大寺川口465-1 TEL(086)943-0062 FAX(086)943-0405
九州営業所 久留米市国分町二ノ江1172-4 TEL(0942)21-9718 FAX(0942)21-1676


このたびは穴掘機をお買上いただき、ありがとうございました。




- この安全取扱説明書は安全快適に誤使用していただくために、下記目次の順にて説明しています。

ご使用まえには必ず熟知するまでお読みのうえ正しくお取扱いただき、最良の状態でご使用ください。

お読みになったあとも、必ず保管してください。

- 部品のご入用、故障の場合には、お買い求めの販売店または各営業所にお問合せください。

 のマークは、安全上、特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

- | | |
|---|---|
|  危険 | 適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が極めて大きいことをしめします。 |
|  警告 | 適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が存在することをしめします。 |
|  注意 | 安全な取扱に対する助言、あるいは適切な事前注意を払わなかった場合に、傷害または製品の重大な破損に至る可能性があることをしめします。 |

- 万ーラベルが読めなくなった場合は、販売店より新しくラベルを購入し貼り替え、常にマークが読めるようにしてください。

目 次

○安全にご使用いただくために	-----	P. 1
○作業中の注意	-----	P. 4
○移動中の注意	-----	P. 5
○使用準備(本機の組付・調節)	-----	P. 5
○運転方法(始動・停止)	-----	P. 5
○日常点検・整備・長期保存	-----	P. 7



機械の改造は危険ですので、改造しないで下さい。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

安全にご使用いただくために・・・

穴掘作業を安全に使用するために、次の事項は必ず守って下さい。

1. 全般的なこと

(1) 穴掘機は穴を掘るために設計・製造されています。

穴掘作業以外には絶対使用しないでください。

- ▲ **危険** (2) 長袖、長ズボンを着用（袖じまり、裾じまりのよいもの）し、頭部にはヘルメット等 JIS等の規格に合格した保安帽を着用するとともに、手袋、保護メガネを付け、足元保護のため安全靴を履いて下さい。（P. 3参照）
- ▲ **警告** (3) 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。
- ▲ **警告** (4) 子供や取扱いの指導を受けていない人には使用させないでください。
- ▲ **警告** (5) 取扱いの指導を受けていない人や扱いに不慣れな人には穴掘機を貸さないでください。
- ▲ **警告** (6) 夜間及び天候の悪いときは使用しないでください。

2. 使用の前に

(1) 機械の点検

- ▲ **注意** ① 各部にゆるみがないか、グリス、燃料が入っているか、燃料漏れがないかを点検し、異常がないことを確認してから使用してください。
- ▲ **注意** ② 4ストロークエンジンですので、燃料は、自動車用ガソリンを使用して下さい。ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないで下さい。
本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。
- ▲ **注意** ③ 新品時には、エンジンオイルが入っていません。必ず4ストロークガソリンエンジンオイルを、100cc（エンジンが水平で注油口の口元まで）入れて下さい。入れないと焼き付きます。
- ▲ **注意** ④ 燃料の補給はエンジンが冷えていることを確認し、火気のないところで行ってください。
- ▲ **危険** ⑤ 燃料を補給するときは火気に注意してください。「火気厳禁」もし、補給中に燃料をこぼしたときは十分に拭き取ってください。
- ▲ **警告** ⑥ ドリルは、確実に取り付けられているか、損傷はないかを確認し、異常のないことを確認してから使用してください。
- ▲ **注意** ⑦ エンジンは空冷式ですから冷却空気の通路がふさがれるとオーバーヒートの原因となりますので、空気取り入れ口や出口を点検して下さい。

(2) 作業場所の点検

- ▲ **注意** ① 空き缶、針金、小石等の有無を確認し、ある場合は取り除いてから作業してください。
- ▲ **警告** ② 穴掘機の作業から15m以内を危険区内とし、この中に作業者以外の人が入らないようロープで囲うか、立て札を立てる等の警告をしてください。

また、数台同時に作業するときもこの距離は守ってください。

(3) 作業時間

- ▲ **注意** ① 1日の作業時間は2時間以内にしてください。
- ② 疲労は事故の最大の原因です。30分～40分作業したら、10分～20分休憩してください。国有林では、作業者の健康管理のため下記のようにしています。

作業は連続3日を限度として	
1回の連続作業時間	30分以内
1日の作業時間	2時間以内
1週の作業日数	5日以内
1月の作業時間	40時間以内

(4) エンジンの始動

- ▲ **危険** ① エンジンを始動するとき、周囲（15m以内）に十分注意してください。
- ▲ **注意** ② 屋内では始動しないでください。
- ▲ **注意** ③ 始動は燃料補給場所とは異なる場所で行ってください。
- ④ 始動するとき、スロットルはアイドリングの状態にしてください。
- ▲ **警告** ⑤ 排気を吸わないように注意してください。
- ⑥ 回転を上げる場合は急激に上げず徐々に回転を上げてください。回転はむやみに上げないでください。

3. 作業時

(1) 運転

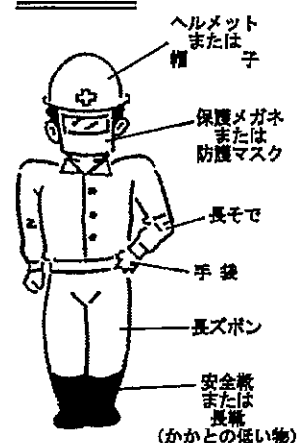
- ① 穴掘作業はゆとりを取って行ってください。
- ② 穴掘作業は腕力で振り回したりせず正しい姿勢でバランスをもって行ってください。
- ③ エンジンの回転速度をむやみに上げず、メーカーの推奨する回転速度を守ってください。
- ▲ **危険** ④ 危険を感じたときは直ちにエンジンを停止し、穴掘機を身体から離してください。
- ▲ **注意** ⑤ ドリルが石等の硬いものに当たったときは、すぐにエンジンを停止し、ドリルに異常がないかを確認してください。異常があった場合は作業を中止し、新しいドリルに交換してください。
- ▲ **注意** ⑥ ドリル部に草等が巻きついた場合は、必ずエンジンを停止してから草等を取り除いてください。
- ▲ **警告** ⑦ 穴掘作業以外にドリルを使用しないでください。
- ▲ **警告** ⑧ ドリルは必ずメーカー指定の純正部品を使用してください。

- ▲ 注意 ⑨ エンジンが回転すると逆方向に力がかかる場合（スラスト）があります。ハンドル等をしっかりと握ってください。
- ▲ 注意 ⑩ 作業中に立ち話は絶対しないでください。話をするときはエンジンを止めてください。
- ▲ 危険 ⑪ 電気ショックを受ける可能性がありますので、作業中は点火プラグキャップ部、高圧線に触れないでください。
- ▲ 警告 ⑫ 火傷防止のため、作業中はもとより、エンジン停止後もしばらくはエンジン本体、マフラ等に触れないでください。
- ▲ 注意 ⑬ 場所を移動するとき、穴掘機を地面に降ろすとき、作業を中断するときは必ずエンジンを停止してから行ってください。穴掘機が故障したときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

(2) 服装 (図参照)

- ▲ 注意 ① 作業の行いやすい服装で作業してください。
- ▲ 注意 ② 作業時は手袋を着用してください。
- ▲ 注意 ③ 帽子、ヘルメットをかぶってください。
- ▲ 注意 ④ 目の保護のため、保護メガネをつけてください。
- ▲ 注意 ⑤ 耳を保護するため、適正な防護具（耳栓等）を使用してください。
- ▲ 注意 ⑥ 安全靴を履いてください。

服装



4. 作業後

(1) 使用後の手入れ

- ① 全体のチリやホコリをよく取り除いてください。特にエンジンのエアクリーナ部分や冷却風取り入れ口の付着物に注意してください。
- ▲ 警告 ② 各部の締め付けネジの緩みがないか、ドリルに損傷がないかを点検し、ネジの緩みがあれば締め付け、ドリルに損傷があった場合はメーカー指定の純正ドリルと交換してください。
- ③ 燃料やギヤケースのグリス漏れがないかを点検し、漏れがある場合は修理してください。
- ④ 修理・調整するときはエンジンを停止し2次コードをプラグから外してください。
- ▲ 警告 ⑤ 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をお使いください。

(2) 保管

- ① 各部を十分に清掃し金属部には発錆防止のためオイルを薄く塗ってください。
- ② 燃料タンク、キャブレタに残っている燃料は全部抜き取ってください。
- ③ エンジンオイルを点検し汚れていたらオイルを交換して下さい。(SAE10W-30) をご使用下さい。又量が少なくなっていたら、補給して下さい。

- ④ リコイルスタータを引張って圧縮のあるところ（重くなったところ）で止めてください。
- ⑤ 損傷個所がある場合は必ず修理してから格納してください。
- ⑥ 子供の手の届かないところに保管してください。
- ⑦ 湿気のないゴミ、ホコリのつかないところに格納してください。
- ⑧ 燃料を保管する場合ポリ容器は使用しないでください。
(1ヶ月以上ポリ容器に入れておくと燃料が腐ります。)

▲注意



作業中の注意

- ▲警告**
 - ・ 安全のため、ドリル類は当社指定のものをご使用ください。
- ▲注意**
 - ・ 作業しないときは、むやみに回転を上げないでください。必ず回転を落とすようにしてください。無駄な空ぶかしは機械の寿命を縮めるものです。
 - ・ 作業は袖じまり、裾じまりのよい、きちんとした服装で行ってください。
- ▲危険**
 - ・ 無理な姿勢での作業は大変危険です。ハンドルは、両手でしっかり握り、両足に平均に体重がかかるよう適当に開いてご使用ください。
- ▲危険**
 - ・ エンジンを始動する場合や、穴掘機を運転する場合は、周囲の安全を確認し、足場のよいところで、安全な姿勢で行ってください。
- ▲注意**
 - ・ 穴掘機は石、切株などに当たらないように作業してください。万一、当たったときは、直ちに、作業を中止して、ドリルの欠け、われがないか確認してください。
- ▲危険**
 - ・ 足を滑らせて転んだとき、穴に落ち込んだときは、必ずスロットルレバーを戻し、ドリルの回転をストップさせてください。
- ▲危険**
 - ・ 雨中及び雨上がりは、足元が滑りやすく大変危険ですから、注意してご使用ください。
- ▲注意**
 - ・ 2人以上で作業する場合は、必ず1.5m以上の間隔を保ってください。
- ▲危険**
 - ・ うしろから声をかけられた場合、作業状態のまま急に振り向かないでください。必ずエンジンを一時停止するなどして注意してください。
- ▲危険**
 - ・ 作業中に穴掘機につるや草などがからみついたときは、必ずエンジンを一時停止するなどして注意してください。エンジンがかかっているときは、絶対にドリルに触れないでください。
- ▲危険**
 - ・ エンジン停止後は、マフラが熱いので枯草等燃えやすい場所へ、絶対に置かないでください。
- ▲注意**
 - ・ 始動・運転中・停止後はマフラなどの高温部、高圧線に触れないようご注意ください。
- ▲注意**
 - ・ 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し、冷えてから補給してください。エンジンの回転中および運転して温まっているときは補給しないでください。また、補給中にこぼしたときは、ウエス等でよく拭き取ってから始動してください。

- ⚠危険** ・ 燃料は、大変引火しやすいので特に注意してください。燃料を補給しているときやエンジンの手入れをしているときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないようにしてください。

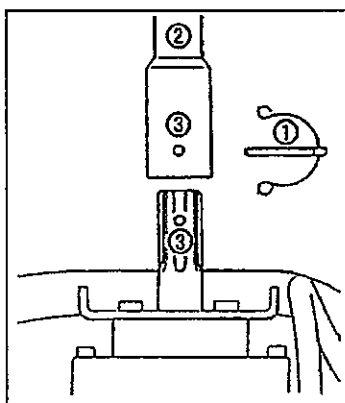
移動時の注意

- ⚠注意** ・ トラック等の荷台に本機を積み移動する場合は、飛び跳ねないようにしっかりと固定してください。
- ⚠注意** ・ 自転車やオートバイの荷台に乗せて移動しないでください。

使用準備（本機の組付・調整）

ドリルの組付

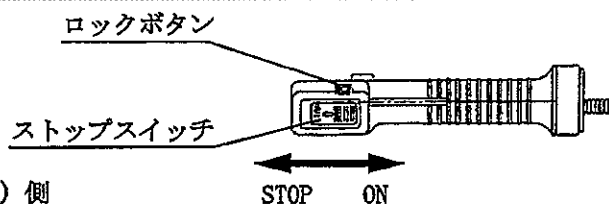
1. まずドリル止めピン①をドリル②からはずして下さい。（図参照）
2. ドリルをシャフトに各々のピン穴③が確実に合うように差し込みます。
3. ドリル止めピンをピン穴に差し込み止めてください。



運転方法（始動・停止）

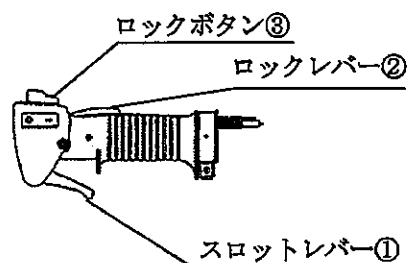
運転

- (1) ストップスイッチをONにする。（-）側



- (2) スロットルレバー①、ロックレバー②を同時におさえたままロックボタン③を押し

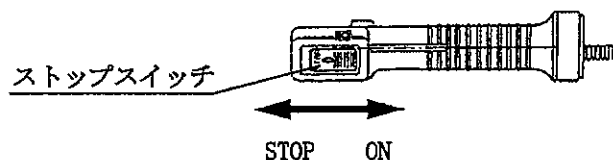
て下さい。次にスロットルレバーから手を放す。（ロックボタンは引っ込んだ状態になります。）



- (3) チョークレバーを全閉にします。
- (4) リコイルスタータを勢いよく引くと始動します。
- (5) スロットルレバーを再び引くとロックが解除されます。チョークレバーを全開にしてドリルの先端を地面に垂直に押しつけて作業開始です。

停止

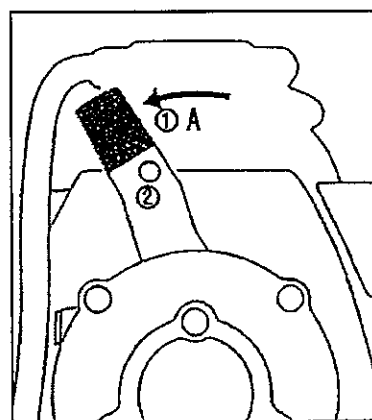
- (1) スロットルレバー・ロックレバーから手を放し、ストップスイッチをSTOP (○印側) にスライドさせるとエンジンは停止します。
* (惰性で回転が残りますので注意して下さい。)



ドリルロック機構

▲注意 粘土質の土壌でご使用になる場合、時としてドリルが土中で動かなくなることがあります。その場合下記要領でドリルを引き抜いて下さい。

- (1) エンジンを停止してください。
- (2) ロックレバー①をピン②からはずして矢印の方向へ押してください。
- (3) (2) の操作でドリルがロックされますので、じわりと引き抜いてください。
- (4) その後ロックレバーを元の位置に戻し、ピンに確実にセットしてください。
* (確実にセットされてないと作動しませんので、十分気をつけてください。)



点検・整備

始動前に必ず点検を行ってください。

- ▲注意**
- ・ドリルの切れ味、ひび割れ、偏心、偏磨耗はないか。
 - ・ドリルの止めピンやその他ネジのゆるみ、損傷はないか。
 - ・エアクリーナエレメントは汚れていないか。
 - ・燃料は充分あるか。
 - ・エンジンオイルの量は、充分あるか、又汚れていないか。

※その他の複雑な調整・修理は購入代理店にご相談ください。

▲注意 《点検整備表》

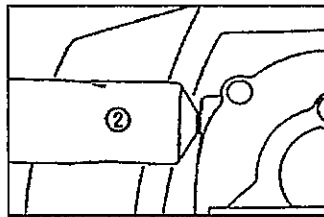
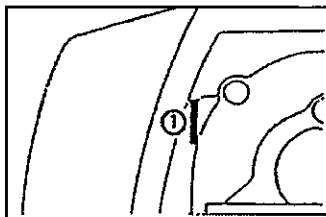
項目	使用時間	毎日	20時間	50時間
ボルト、ナットのゆるみ点検		○		
燃料もれ点検		○		
点火プラグの清掃と間隙調整			○	
ボルト、ナット等の増締め				○
エアクリーナエレメント清掃			○	
ギヤケースのグリス補給			○	
排気孔、マフラのカーボン除去				○
気化器の点検、清掃				○
遠心クラッチ、ライニング面の点検				○
エンジンオイルの量、汚れ点検		○		
エンジンオイルの交換				○

(注意) 機械の寿命は、手入れの良否によります。上記の表の項目について点検整備を行ってください。数時間は使用時間や付加状況により適宜増減してください。

グリスの補給

グリスはエッソのリスタンEP2相当のものを20時間ごとに補給してください。

- ① グリス注入口のボルトを取り外す。
- ② グリスを注入する。
- ③ グリス注入口のボルトを取り付ける。



長期保管

- ① 2週間以上使用しない場合は、燃料タンク、キャブレタ内の燃料を全部排出してください。
- ② キャブレタ内の燃料を抜くには、タンクの燃料を抜いた後、エンジンを始動させ低速のまま、自然にエンジンが停止するのを待ちます。
- ③ エアクリーナを清掃すると同時に各部の汚れを取り除いてください。
- ④ 点火プラグ取り付け穴より2サイクルオイルを数滴注入し2~3回リコイルスタートを引っ張り、ピストンヘッドが最もプラグに近い位置でプラグを装着してください。
- ⑤ オイルを交換して下さい。初回：1か月または10時間運転時、以後6か月毎または、50時間毎。交換はエンジンが完全に冷えてからオイル交換を行って下さい。

▲注意

エンジンが充分冷えていることを確認してから、直射日光のあたらない、湿気やホコリの少ない場所に保管してください。